

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成24年12月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078000082		
法人名	有限会社 まんてん		
事業所名	グループホーム まんてん	ユニット名	
所在地	福岡県久留米市三潴町草場33-1		
自己評価作成日	平成24年12月19日	評価結果市町村受理日	平成25年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階
訪問調査日	平成24年12月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭に近い雰囲気を作り出すよう心がけている。
------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームまんてん”は開設10年目を迎える。前施設長が作られた“一人ひとりを大切に・優しい笑顔・人に優しく、自分に厳しく”と言う理念を大切に、利用者との関わりを深めてこられた。その取り組みは利用者や家族にも届いており、6年前に退居された家族の方が、「お世話になったから」と今でも手作りの野菜を届けて下さっている。利用者の自立支援も大切に“歩く”支援も続けており、1日2回の散歩を続けている方もおられる。職員が車いすを押してホーム周辺の散歩を楽しむ光景も日常であり、近所の方から声かけをして頂く機会も増えている。季節に応じて花見に行かれており、買い物やレストランでの外食を楽しむなど、ホーム長の運転で個別の外出も増えている。利用者個々の生活歴を活かし、野菜の収穫、洗濯物を干したり畳んだり、できる範囲で手伝って頂いている。入居が長い方もおられ、馴染みの関係の中にも「親しき仲にも礼儀あり」と言う管理者の言葉を胸に、日々の振り返りを続けている。これからも“まんてん”の笑顔で過ごせるように、職員のアイディアを活かしていく予定である。
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は理念と経営方針を理解し、利用者が地域に馴染めるよう近隣の方々とお付き合いを大切にしている。	「一人ひとりを大切に、優しい笑顔、人に優しく自分に厳しく」という理念のもと、ミーティングの時や日々の業務の中でケアについて話し合い、ご本人の思いを大切にされたケアに努めている。管理者の温かさもあり、職員のチームワークも良く、利用者同士の関係性にも配慮し、お互いが心地よく生活できるための意見交換もできている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者・職員は近隣の方々への挨拶はもちろんの事、遊びに来ていただけるよう声掛けも行っている。	町内会に入り、ホーム長が清掃活動に参加し、老人会主催の行事(だご汁会等)には利用者も参加している。近隣の方から野菜を頂く事もあり、23年のホームのバーベキューには隣の方も参加して下さい。近くの子供たちが「老人ホームの勉強に来ていいですか」と遊びに来て下さり、一緒に塗り絵等を楽しまれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等において、参加者の方々に対して認知症という症状に対して理解していただけるよう努めるとともに、本年度は、代表者が地域の認知症サポーター養成講座で講演を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年、外部評価の結果後の運営推進会議で、報告を行うとともに、それに対して意見を頂きサービス向上に生かしている。	利用者、老人会会長、尚寿会会長、民生委員、市職員、前家族代表の方、地域包括の方等に参加頂き、23年度から2か月に1回開催している。参加者の方から「近くの子供に遊びに行くように言ってみます」と言うお言葉も頂いた。水害の時の消防の対応についての情報共有も行われ、対策の検討も行われた。	家族の方にも声かけていたが、参加が難しい現状であり、今は案内を差し上げていない状況である。家族の意見を会議に反映する方法の検討を含め、議事録の郵送などを通して、会議の内容をお知らせする機会が作られる事を期待していきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や会議の時に相談し、助言を頂いている。	ホーム長は包括圏域ごとの交流会にも出席し、市の担当者との交流を図っている。三瀬町での認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、運営推進会議で市の方が高齢者介護(特に認知症の方々への介護)の国のガイドラインを説明して下さい。市の担当者から研修情報等をメールで送って頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員は、危険性・緊急性・一時性が無い場合は、身体拘束を行わない介護を実践している。	職員は身体拘束にあたる行為を理解し、実践している。夜間以外、ドアが開いたら鳴るチャイムも付けられ、玄関の鍵も開錠し、自由に出入りして頂いている。利用者の体調や気分により、転倒の危険性がある方については、職員の見守りを強化すると共に、所在確認を担当する職員も配置されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、ミーティングにおいて虐待について内部研修を行うとともに、どのような場合においても利用者が虐待される事のないように注意防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、ミーティングにおいて説明するとともに、冊子をいつでも読めるよう設置している。	外部研修を受講し、ホーム内研修の場などで職員全員に説明している。内部研修でもホーム長が資料を配布し、説明している。以前は、家族会の場でも制度の説明が行われた。現在、制度の利用者はおられないが、新しい方にも説明予定にしており、必要な方に制度の活用ができる支援を行うようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行うとともに、書面上で同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料を支払われる時に、意見要望等を聞いて運営に反映させている。	毎月、写真等を郵送し、年2回はホームでの様子を家族にお手紙で伝えている。家族の面会時や電話で希望を伺い、家族の意向を確認している。“家族と旅行に行きたい”という要望もあり、体重増加に伴うADLの低下を防ぐため、ダイエットを提案した。計画に盛り込み10kgの減量に成功し、旅行に行く事もできている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や朝夕の申し送り時に、意見や提案を聞き、運営に反映させている。	日常の業務や毎月のミーティングの時に、利用者のケア方法について質問があがる事も多い。職員個々に意見を聞く機会も作り、活発な意見交換が行われている。少人数での買い物や外食の意見もあがり、職員が同行し、ホーム長の運転で、実現する事ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績に関しては、賞与に反映させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用に関しては、一切の偏見はしていない。又職員個々の能力を生かせるよう努めている。	採用時には、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはなく、明るく、会話が好きな方などを大切にしている。職員個々の特技があり、毎日の食事作りの場などで力を發揮して頂いている。希望休が取れるよう勤務調整が行われ、管理者の温かい心で職員のチームワークが保たれている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者又は管理者が外部研修を受け、ミーティング時に内部研修を行っている。	ホーム長や管理者はミーティング時などに、“一人ひとりを大切に”と言う事を職員に伝えている。権利擁護や虐待について、ネットで資料を検索し、職員に配布すると共に、24年には虐待に関する職員向けのアンケートも行われた。ビデオも見られ、職員同士の意見交換が行われた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成するとともに、できるだけ個人のスキルアップが計れるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3回行われている事業所交流会に参加する事により、他事業所の良いところを学んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートに本人の情報・要望を書き込み職員全員に周知関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に御家族の要望を聞き、できる限り意に添えるよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の時点で他のサービスを含めた提案を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、「家族」と言う言葉を念頭に日々活動するよう教育している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族が協力して利用者本人を支えていけるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんから行きたい場所を普段の会話の中から聞き出し、対応できるような場所であれば、車で同行している。	「家族と話したい」と言う事で、携帯電話を持っている方もおられる。家族の協力で自宅に帰り、仏様参りをされる方や、ホーム長の運転でお墓参りにも行かれている。家族や親戚の方の訪問もあり、居室で寛がれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員一人ひとりが把握し、利用者間でトラブルがあった場合には必ず職員が仲裁し仲を取り持っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も時折、近況を尋ねたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の性格・生活歴・経験等を考慮してできる限り本人の意向に沿って生活できるよう取り組んでいる。	ソファなどでゆったり過ごす時間が多く、ご本人の思いを伺うようにしている。家族の訪問時にも要望を伝えて頂いている。言葉での表現が難しい方もおられるが、入居が長い方も多く、表情や行動からご本人の気持ちを汲み取るようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に、利用者さんの生活歴・経験・出来事などできる限りの情報を収集し、御家族、ご本人と話し合い、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日誌を作成し、その日の心身状態、1日の過ごし方など職員全員が把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・見直しについては、ミーティングにおいて全職員で話し合い、より良い介護方法を選択するようにしている。	ご本人の生活歴や得意な事を大切にされている。課題・目標には、ご本人の願いに繋がる目標が挙げられ、編み物、洗濯物たたみ、毎日の散歩、畑仕事など、ご利用者の役割や楽しみと共に、家族の役割も盛り込まれている。日課計画表には具体的なケア内容が記載され、ケアの統一が図られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を個別に作成し、現在の利用者の心身状態を職員全員が把握している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者及び御家族のニーズに対しては、できる限り対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協・区長・老人会・児童民生委員・ボランティアの方々、警察消防機関等と協力しながら支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は契約時に本人又はご家族に選んでいただいている。	ホーム長などが受診介助し、主治医への報告をしており、受診結果は家族と共有できている。週1回の往診時には水分量等の指示も受けており、訪問看護師からのアドバイスも頂けている。24時間体制で連携が取れており、体調の変容があった時は、ホームの看護師が主治医に連絡し、病気の早期治療に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の日々の気づきは、毎朝夕の申し送り時、特変事、ミーティング時などで看護職員に相談し、利用者の健康保持に勤めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時には必ず職員が同行し、ドクターとの情報交換を行っている。入院中も病院へ訪問し、利用者の状態を把握するよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所・御家族・御利用者・医療機関と連携をとりながら終末期のケアに取り組むことを御家族、ご本人に説明し納得していただいている。	契約時に“看取り介護に関する指針”の説明をしている。入居時の家族アンケートでは「最期は病院で…」という意向も多いが、「医療処置は望まず、ホームで自然に最期まで」という意向の方もおられ、往診と訪問看護を利用しながら、23年5月に初めての看取りケアが行われた。家族が持参した“おはぎ”を食べて頂き、緊急時は夜中でも管理者が駆け付けて下さり、精神誠意のケアが行われた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員により、日々の活動の中で執り行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通常年2回の避難訓練を行っている。	利用者も参加し、年2回、昼夜を想定した避難訓練が行われ、その内1回は消防署の指導も受けている。ホームの第一避難場所として提供頂いている隣家の方にも、訓練のお誘いをしている。災害時の協力依頼もしており、協力体制は整えられている。災害に備え、3日分の飲料水や食料を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者がなじみの関係にはあるものの言葉かけには注意するよう日々の活動の中やミーティング時に指導している。	職員は日々のケアの中で、利用者の自尊心を傷つけない声かけを心がけている。馴染みの関係でもあり、「親しき仲にも礼儀あり」と言う事を管理者は伝えている。個人情報の取り扱いについても職員全員で注意を払い、情報漏洩しない取り組みが続けられている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においても、本人が選択できるような言葉かけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるものの、無理にその流れに乗せるような対応はしていない。利用者個々のペースを大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、ご家族に納得していただいた上で訪問理容を利用いただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をその場その場で利用者の意見を取り入れながら立てたり、利用者に豆の皮むきやテーブル拭きを手伝ってもらっている。	畑で採れた野菜(茄子・ねぎ・ピーマンなど)や旬のものを食材に使い、美味しい料理が作られている。利用者には調理の下ごしらえやテーブル拭きなど、できることをして頂いている。誕生日には“お刺身”などの希望に応じた献立にしており、回転寿司やうなぎを食べに行く等の外食も楽しんでいる。	ホーム長がホームにおられる時は、利用者と一緒に食事を食べられている。職員も一緒に楽しい食事の時間を過ごしていた時期もあり、今後も、“食事を楽しむ”方法の検討が続けられていく事を期待していきたい。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎日個々に記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの支援に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個々の排泄パターンを把握し、気持ちよく排泄できるよう対応している。	日中はトイレでの排泄を心がけており、夜間も含めて、ご自分でトイレに行かれる方も多い。パッドの大きさも個別に検討し、個別の誘導を行う事で失敗もほとんど減っている。羞恥心への配慮も行い、排泄時の声かけも小さくしている。排泄時はカーテンやドアを閉め、さりげなく見守りを行い、1人で排泄できる支援もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を個々に行っており、必要な場合にはかかりつけ医に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定しているが、その日以外に希望があれば対応している。	“1番風呂は嫌”と言う方もおられ、湯温も好みに応じて調整している。洗身時も自立支援を心がけ、できる範囲は洗って頂いている。入浴時は普話を楽しまれ、季節に応じてみかん湯なども行っている。入浴を拒まれていた方も、声かけを工夫する事で、入浴後は「気持ちよかった～」という声が聞かれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の自由に休息を取っていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の介護日誌に薬の用法、用途を添付しており職員全員が把握している。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし草花の手入れ、草取り、洗濯物を干したり畳んだり手伝っていただいております、利用者に笑顔が見られる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は利用者一人ひとりに聞いて支援している。普段いけない場所への外出は職員・利用者で話し合い場所を決めている。	職員も同行して、1日2回の散歩を日課とされている方や、ホームの畑で野菜の収穫をして下さる方もおられる。ホーム周辺には季節を感じられる木々(柿の木等)もあり、職員が車いすを押して散歩をしている。季節に応じて桜の花見に行かれており、ホーム長の運転で個別の外出も増えている。“100均”などでの買い物を楽しまれ、レストランやうどん屋での外食にも行かれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が難しい方は、買い物する時にホーム側が立て替えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使っていただいている。手紙も希望があれば支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植木、草花。装飾品、人形、四季折々の写真、利用者の日々の写真、手作り作品等を全体に取り入れ明るく和やかな空間作りに心がけている。	23年にリビング横の和室をフローリングに変更し、車いす利用の方も移動がしやすくなった。ソファも移動し、利用者同士の関係性に配慮した空間作りをされている。ホーム周辺に住宅が増えているが、リビングは明るく、観葉植物も育ち、光の調節や換気も適宜行われている。ホームの庭には芝生が植えられ、23年度には隣の方も一緒にバーベキューを楽しまれた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やダイニング、廊下などソファや椅子を設置し気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス利用前に極力使い慣れたものを持ち込んでいただくようご家族に説明している。	ペット、カーテン、エアコンなどを備え付けている。入居の際に家族に協力して頂き、自宅で使っていた寝具やタンス、座椅子、テレビなどを持ち込まれ、自由にレイアウトして頂いている。写真などを飾られ、利用者が心地良く過ごして頂けるように工夫している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室及び共有空間において、利用者にとって障害物を極力排除し且つ安全に移動ができるよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名: グループホーム まんてん

作成日: 平成 25 年 1 月 16 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に御家族に参加していただき、御家族の意見を会議に反映させる。	御家族に運営推進会議に1度は参加していただく。	あらかじめ口頭で運営推進会議への参加を打診し、参加していただける可能性があれば案内を差し上げる。また、参加が不可能なご家族に対しては、利用料お支払時に運営推進会議の内容をお知らせする。	12 ヶ月
2	42	昼食を職員も利用者と一緒に摂り、楽しい食事の時間を過ごす。	職員一人が毎日、検食も兼ねて利用者と一緒に食事を摂り、楽しい時間を過ごす。	職員が交代で毎日、利用者と一緒に昼食を摂り、その職員は、感想、利用者の意見等を検食ノートに記す。また、月に1度のミーティング時に評価を行う。	1 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月